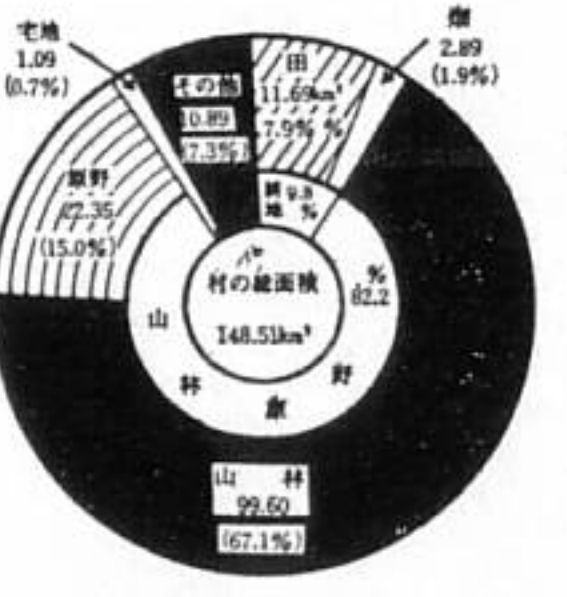




世帯と人口	
世帯数	1,601世帯
人口	7,517人
男	3,701人
女	3,816人
前月に比し世帯は6の増 人口は13の減	

財政	
一般会計	220,143千円
特別会計	57,349千円
国保	55,068千円
内訳	黒診 799千円
	簡水 939千円
	玉財 543千円

報村利由東

No. 142 1969・5・1

発行 秋田県東由利村役場 印刷 KK本間印刷所
毎月1日発行(1部8円) 昭和42年7月21日第三種郵便物認可

農委ら農労賃を協定

田植え一日九五〇円

4月21日本村と農業委員会、建設協会、季節労働協、農家労働力対策連絡員、農機具利用組合らが役場で合同協議会を開き、春耕期の農業労働賃金を協定した。
またこの中で、田植え時の労働時間を午前8時、午後5時から休憩時間一五分をはさんで

一時三十分。午後の部、一時から休憩時間一五分をはさんで六時まで実働九時間。
一方、農家の主婦たちが農業作業に専念できるように、田植えに専念できるように、人に対する物品などの贈与は深く自粛しようと申し合わせた。【写真、苗代づくりもた



森林組合新役員
本村森林組合の役員任期は4月17日で満了するため、選挙は4月7日に行なわれた。
なお、新役員はつぎのとおりであり、任期は3年である。
(◎印は組合長、○印は副組合長をします)理事、◎高橋重助、○小松慎一(高戸屋)、○山田正、○佐々木賢次、○左武郎、○渡辺福蔵、○木島節造、○工藤三雄、○八島山利三、○小

農業労働賃金	
田植え	1,700円
通田植え	1,200円
普通	1,100円
田植え	950円
除(機械)	850円
除(手取)	800円
一農	750円

納めましたか...
国民年金保険

農業共済新役員
松文一、長谷山誠一郎、代表、監事、工藤美徳、監事、小松与惣雄、小野長兵衛。

本村農業共済組合では任期満了にともなう役員改選を行ない、4月1日から就任した。
組合長、小松真一(黒沢)、副組合長、高橋俊一、理事、佐々木直三郎、遠藤治郎助

福祉年金の所得状況届を
七〇才以上のお年寄り、重度の心身障害の方、夫と死別した方などで現在福祉年金を受けている方は、毎年6月中旬に定時の所得状況届を、役場



東由利 建設準備大詰に

毎日ほしい三〇人の労務

に出かせぎを予定している方、村内に仕事があればいた考えてある。



写真上、新しく選任された森林組合長、高橋重助氏。下、農業共済組合長、小松真一氏。

横山治三郎、佐藤根二、小松良一、監事、畑山清一、莊野徳一郎、藤原陽太郎。
共に実践活動家
森林、農共両組合長の横顔
高橋重助氏(森林組合長、館合新田58才)本村議会議員二期9年3月をこえた。か、旧村ごとの組合が合併して本村森林組合を設立した昭和34年4月から、連続して同組合理事をつとめている。
同氏は、昭和9年以来、他にさきか、しいたけ栽培をするなど、かつての玉米中学校が産業教育活動の中に、しいたけ、なめこ栽培などをとりあげるヒントを与えた。
また、昭和38年からは本村に栗導入研究会をつくって着々導入を促めるなど、特殊林産物に対する広い知識と実践家としての知られている。
小松真一氏(農業共済組合長、黒沢60才)昭和43年7月まで本村議会議員連任五期22年余月をつとめ、この間、産業経済委員長を三期つとめるなど、もっぱら農業問題に手腕をふるった。
一方同氏は、早くから米に

NHKと民放 低温情報を発信

異常低温が農作物に与える被害は大きく、ことに5月中旬ごろまでの晩霜は大敵。そこでNHKと秋田放送では、低温情報を毎日放送して農家に先手先手の対策を呼びかけている。
・NHK
ラジオ第一、午後六時五〇分
総合テレビ、午後六時五四分
・秋田放送
ラジオ、午後六時三十分から
テレビ、午後六時四〇分から

使うときには、①散布作業になれると扱いが粗雑になりがち、そこで①子どもや家畜を作業現場から遠ざける。②薬をうすめる時に皮ふに直接つけないなど十分の注意を。

ありがたくな 卒中村
急がれる 予防のみち
東北大学医学部衛生学教室では、由利組合総合病院、本荘保健所の協力で、昨年7月22日から31日まで10日間におたり、本村玉米地区の四〇才以上の住民を対象に、循環器検査を行なった。その検査結果が、このほど報告されてきたが、こと生命にかかわるものだけに数々の示唆を与えていよう。また、検査の行なわれた地域は、村全域にわたった訳ではないが、単に「対岸の火事」ではすまされない意味があるのではなかろうか。

わが国の死因順位は、ここ十数年「脳卒中」が第一位を占めており、東北地方は、ここに秋田県は最も高いところとして知られている。
このような死亡率が、地理的にどう分布しているかを見るために、東北地方でも雄物川、最上川流域の秋田・山形県内陸農村地域に最も高く、川流域の内陸農村地域とがほぼ同率で高い。しかし、三陸

沿岸や男鹿半島などの岩礁地域では低いのである。
このように地域差と、脳卒中でない高血圧が発生する要因を追究しようと、東北大学医学部衛生学教室では、由利組合総合病院や本荘保健所の協力で、日本海側水田単作農村の一つである、本村玉米地区住民の四〇才以上を対象に検査を行なった。

男子三六五人、女子四六五人、対象者の七二割を占めた。またこのほか、単に血圧測定のための検査を受けた人は、三〇才から三九才までの男女三九人があり、したがって血圧測定を受けた総人数は一八〇人であった。
脳卒中による死亡
本村では、昭和38年から42年にいたる5年間に、脳卒中で死亡した人が一四一人と数えられ、年平均二・八二人である。これを本村人口一、〇〇〇人あたりに見ると三・五一人と

なり全国平均の一・七一人。秋田県平均の二・四四人と比べて、はるかに高い。
また年令的には、高令になるにしたがって死亡率が高くなっているが、水田単作農村の共通した特徴として、四五才から六四才にいたる働きざかりの中年層が脳卒中で倒れている事実である。
また本村では、全国の死因順位とちがい、第二位は心臓病である。この点から死亡につながる疾患として、脳、心臓事故が大きな比重を占めており、発生予防の途を講ずることが重要だ。
若妻に多いしびれ、本村では農婦症、既往症、すなわちすでに

かつてのことのある病氣、ということがあるが、脳卒中の既往ありとする人は少ないが、高血圧では四〇才代で三〇割、六〇才から七〇才代では五〇割、七〇割であり検査を受けた人の半数以上をしめたという。
農夫症または脊柱変形、神経痛、リウマチとの関係を知る手がかりとして、腰痛・背痛・肩こり・関節痛・神経痛・手足のしびれ・手足のこばりの現症を問診している。
前述した七例の現症のうちいづれかの自覚があると答えた人が、全受診者の男子で七〇(八〇)割、女子では八〇(九〇)割であった。
七例のうち項目別にみると腰痛が四〇(五〇)割、背痛は一〇(二〇)割、肩こりでは男子二〇(六〇)割であるのに対し、女子は六〇(七〇)割が訴えており、年令による差はなかった。また、関節痛や神経痛の訴えも女子にや多く手足のしびれを訴えるのも女、とくに年令の低い層に多かったという。

老化が早いと指摘
同地区住民の体位を測定することは、身体の実度を知らうえて大切であった。
ちなみに身長と体重で全国平均に等しいが、都市部に比

食生活を改善
養改善推進地区に指定、昨年年度来村内の婦人一一六人を推進員に仕立て、村のすみずみまで栄養改善の輪をひろげる活動をしてきた。
指定にともなう活動は二カ重ねを土台に、実際に部落に

血液比重も低い
同地区住民の体位を測定することは、身体の実度を知らうえて大切であった。
ちなみに身長と体重で全国平均に等しいが、都市部に比

入って活動ができるような応用栄養を身につけようと、婦人たちは張り切っている。
【写真、これは実技を、二年目をむかえた栄養改善講座、4月25日役場会議室で】

山さいシーズン来る
山火事を防ごう

